ノットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワーク

下都賀地区生涯学習研究会機関紙　第48号

ネットワーク

平成３０年３月
発　行　下都賀地区生涯学習研究会
事務局　下都賀教育事務所ふれあい学習課内
TEL　0282-23-3422
FAX　0282-23-3502
E-mail
shimotsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

今年度で本会を御勇退になる下野市立国分寺東小学校　髙山　玲子　校長先生から、会員の皆さんに向けたメッセージを寄稿いただきました。諸先輩方からのバトンを大切に引き継ぎながら、下都賀地区の生涯学習・社会教育の一層の推進に向けて、今後も会員相互のネットワークを築いていければ幸いです。

さらなるネットワークを

下都賀地区生涯学習研究会　会長
下野市立国分寺東小学校　校長　髙山　玲子

名ばかりの会長でしたが、下都賀地区生涯学習研究会の会員の皆様のおかげで一年間の会長職を終えることができます。また、この３月で定年を迎え、本研究会も卒業となります。本会で出会った多くの皆様に心より感謝申し上げます。私は、平成７年度からの３年間とちぎ海浜自然の家で勤務し、その間の平成１０年１月に上野で社会教育主事講習を受ける機会をいただきました。その研修では、今までとは異なる視野の広さを得ることができたように思います。平成１０年４月から学校に復帰しましたが、社会教育主事有資格者として、また、教務主任という立場から地域のよさを生かした様々な取組を取り入れることができました。その後、下都賀教育事務所で社会教育主事として４年間勤務しましたが、この間の様々な方々との出会いは、本当に貴重なものでした。会員の皆様が、今後さらにネットワークを広げ、益々御活躍されることを祈念申し上げます。

シリーズ「事例から学ぶ 52」

ボランティア養成講座「ボランティアスクール」における地域との結びつき

栃木県立栃木特別支援学校　　教諭　早乙女　陽一

本校は、知的障害教育部門、肢体不自由教育部門、病弱教育部門がある特別支援学校で、児童生徒の自立と社会参加を目指して教育活動を行っています。社会によき理解者が増えることが重要なことと考え、毎年「ボランティアスクール」を開催しています。６回の講座の中で、障害児の特性や車椅子の操作などの理解を深めていただき、夏祭りや学校祭でボランティア活動の実践をしていただいています。参加者は高校生や主婦の方、退職後にボランティアをされている方など様々です。「子どもたちと接する中で、とても楽しく過ごせました。」「車椅子操作の理解を深めることができました。」といった感想が参加者から聞かれました。修了者の中から今年度は８名がボランティア登録をしてくださいました。今後とも学校支援ボランティア活動を活性化することを通して、学校と地域との協働による「地域とともにある学校」を目指していきたいと考えています。

【ボランティアスクールで車椅子体験をする受講者】

情報提供：同校ボランティア担当　沼野　彩香

報　告

生涯学習研究会第２回研修会（ふれあい学習ネットワーク兼地域連携教員研修）

２月２日（金）、栃木市藤岡文化会館・藤岡公民館において第２回研修会を開催しました。前半は、壬生町子育て支援グループポケット代表　岡本　恵　氏、野木町公民館友沼学区分館長　秋元　吉行　氏、県立栃木特別支援学校地域連携教員　早乙女　陽一　氏の３名に、日頃の実践について事例発表していただきました。後半は、各市町に分かれ、地域連携教員と地域で活躍している団体等との交流会を行いました。学校と地域のネットワークづくりの充実が図れる研修会となりました。

ネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワーク

リレー「となりの社教主事 42」

「いろいろな人に支えられて・・・」

小山市立羽川小学校　　教諭　須藤　千栄

私が勤務している羽川小学校では、保護者ボランティアや、地域の方々との交流の機会がたくさんあります。

保護者の方のボランティアは、学習ボランティアや図書ボランティアなどがあります。図書は季節に合わせた図書室の掲示や貸し出しの補助をしてくれています。学習ボランティアでは、友だちのお母さんやお父さんではなく、授業中は先生として教えてもらっています。子どもたちも、分からないときにすぐ教えてもらえる存在を頼りにしています。

また、地域の人との交流では、低学年の昔遊び、３年生のかいこ、４年生の特別支援学校との交流、５年生の田んぼの学校、６年生の公民館での茶の湯体験、運動会で披露する「愛の橋」お囃子などでお世話になっています。いろいろな場面で助けられながら学習をし、たくさんの地域の方に育ててもらっているということを実感しています。このように学校や子どもたちを支えてくださる方が多い事に感謝し、私も今後、地域に貢献できるように何かできることを探して行きたいと思います。

学校を応援したーい 13

「安塚小『ひいらぎ集会』」

壬生町立安塚小学校　　教諭　安生　正比古

本校では、毎年「ひいらぎ集会」という名称で、地域のボランティアの方々に協力していただき、異年齢集団（１～６年生の縦割り班）での体験活動を行っています。この集会は、本校が人権教育の研究校になった時に、異年齢集団での活動の機会を作ろうということからスタートしました。「ひいらぎ集会」は、地域の方々とふれあうよさを学ぶことを目的に、１０年以上続く、本校の伝統的な活動の一つです。

今年は、うどん作り、アウトドアクッキング、科学遊び、木工クラフト、はにわ作り、パソコン、バルーンアート、など１５のコースで実施しました。ボランティアの方々の年齢は、３０代から７０代まで様々です。多くの地域の方々に参加していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。活動をしている時の児童の目は生き生きとしていて、実に楽しそうでした。このふれあい活動をとおして、児童は、助け合うことの大切さや、大人の人との接し方を学んでいます。

【ボランティアの説明を真剣に聴く子どもたち】

雑感

「地域の自慢は？」

野木町公民館　主査兼社会教育主事　永山　　司

先日、地域活性化セミナーに参加した時にアイスブレイクがありました。内容は「現在住んでいる、あるいは勤務している市町（地域）の自慢できることをパートナーに２分以内に１０個伝える」というものでした。

最近は様々な講習で「地域のヒト・モノ・コトを探す」ということが多いように感じますが、実のところきちんと考えたことがなく、わずか１０個の地域自慢を考えるのに時間一杯を使ってしまいました。普段の仕事の中で「地域活性化を…」「地域の資源を使って…」だなんて、地域自慢もロクに話せない私のどの口が言えたのでしょう。社会教育主事を発令されて早何年、恥ずかしかったです。

後から考えたことですが、短い時間の中ですぐに伝えるには全国や県内で何位だとか、他の地域よりどれくらい優れているとか難しく考える必要はなく、自分が思いついたそのことを自慢だと思えるかどうかが重要だと思いました。

皆様の地域の自慢は何でしょうか。２分以内に１０個考えてみてください。お近くの時計を見て、「よーいどん！」

編集後記

先日の平昌オリンピックでは、日本代表の女子カーリング選手たちが、日本史上初めてのメダルを獲得しました。その実力はもちろんですが、彼女たちの発する言葉にも注目が集まりました。その言葉とは『そだね～』です。この言葉には、相手を尊重する・相手に共感するという意味が含まれていると思いませんか。みなさん、彼女たちの笑顔を思い浮かべながら、ぜひ一度言ってみてください！　（K）